

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学 法・経済・教育学部

前期日程

科目

国語(現代文)

総 括	出題数	現代文 2 題, 古文 1 題, 漢文 1 題			
	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
	分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

〈総 論〉

一 問題文の長さは3700 字程度で昨年より 900 字程度減少した。設問形式は、抜出問題が 1、記号選択問題が 1、記述説明問題は 4 問であった。記述解答量は 19 行と昨年より減少した。問 4 で、昨年同様「本文の論旨を踏まえて」という設問条件があった。また、問 6 では、昨年の二の問五同様、「具体例を一つ挙げて」という設問条件があった。本文は昨年度に続き評論であり、ウェーバーの価値自由の概念を通じて、現代社会における政治的中立性について述べられた人文学系の文章である。

二 問題文の長さは昨年度より 1900 字程度増加し 4500 字程度であり、設問数は昨年度と同じく 6 問であった。解答量は昨年度より 1 行減少し、23 行であった。例年と異なり、設問はすべて傍線部についての内容を問うものであった。本文は昨年度に続き評論であり、美学に対する批判と可能性について述べられた人文学系の文章である。

〈合格への学習対策〉

哲学・思想・倫理学、文化・文明論、言語論・文学論を含む芸術論、教育・学問論など、評論や硬めの随想を読みこなし、指示語の指示内容の把握、具体例と一般論の論理関係や文構造の正確な把握、対比関係の把握など、基本的な読解力の充実をはかることが肝要である。また、本文内容から適切な具体例を自分で示すという推論能力も必要となる。さらに、解答時間内での記述量の多さに耐えうる表現力を獲得する必要がある。そのためには、客観的な読解及び論理的な解答作成の手順に習熟するとともに、駿台文庫の青本「九州大学」を活用して、過去の本試験の問題を素材とした学習を行うことが有効である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
一	評論	野口雅弘『中立とは何か マックス・ウェーバー「価値自由」から考える現代日本』	現代社会、特に現代の政治教育現場における政治的中立性について述べた文章。マックス・ウェーバーの価値自由について詳細に論じた上で、若者たちが、政治的な問題について、自分の意見を持って自分の態度を決定していくことが困難になっている現代の教育現場における問題を論じている。	標準
二	評論	星野太『美学のプラクティス』	今日の美学の常識的な定義が、「美」「芸術」「感性」を対象とする哲学の一分野であることを述べて、それに伴う問題点を指摘し、それに対する批判を列挙しながら、政治哲学者ジャック・ランシエールの議論を引用して、美学に対する批判がどこに起因し、それに対するどのような戦略が考えられるのかを論じている。	やや難

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
一	問1	抜き出し	現代の時代の精神について述べた部分の具体例を述べている箇所を抜き出す。「対立の契機」「丁寧に取り除かれてきた」との対応に注目すればよかった。	やや易

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

二	問2	記号選択	空欄に入る引用文を選ぶ。空欄部直前の「価値の対立にこだわるマックス・ウェーバー」と直後の「残念な存在に映るかもしれない」を根拠に考える。	やや易
	問3	記述	理由説明。傍線部に続く段落の内容をまとめればよい。慣用表現「殺し文句」は言い換えておきたい。 (解答枠 16.8センチ×4行)	やや易
	問4	記述	本文全体の論旨を踏まえた内容説明。21段落「このようなウェーバーの価値自由」の指示内容を中心に、12・14段落の「価値自由」について述べた内容を加えながらまとめればよい。 (解答枠 16.8センチ×6行)	標準
	問5	記述	理由説明。文末表現「～こと」の並列に注意したうえで、17段落の「プロセス」について述べた部分を中心に、16段落の「政治教育」について述べた部分の表現を利用してまとめればよい。 (解答枠 16.8センチ×4行)	標準
	問6	記述	本文で言及された以外の具体例を一つ挙げる内容説明。「党派性」について、11・14段落の内容を整理した上で、傍線部が「現代の政治教育」について述べていることを踏まえて、18段落を援用しながらまとめればよい。「うまく扱えない『党派性』とは何か」という問いかたに注意する必要があった。 (解答枠 16.8センチ×5行)	やや難
	問1	記述	内容説明。「美学」が「具体的事象」と「抽象的思弁」とのあいだで、「おのれを宙吊りにしながら思索を続ける」学問であることを説明する。「宙吊り」「往復」といった比喩表現を適切に言い換え、「たえず」「常態としている」という傍線部の表現にも注意してまとめる。 (解答枠 16.8センチ×3行)	標準
	問2	記述	内容説明。傍線部の指示語「こうした」の指示内容である直前のカントの引用文について、傍線部を含む一文の直後の「つまり」以下で説明されていることを把握し、その一文とさらにその次の文を、「パラドクス」の語義に注意しながらまとめ解答する。 (解答枠 16.8センチ×4行)	やや易
	問3	記述	内容説明。傍線部の指示語「こうした」の指示内容が、直前の「こうした疑念」であることをおさえ、さらにそれがヴァレリーの美学に対する批判であることをまとめるとともに、「美学における『居心地の悪さ』」については、傍線部の次の段落以降のランシエールの議論でも述べられていることを見落とさず、「現代の反美学的言説」についても言及する。解答範囲が広いことに注意が必要である。 (解答枠 16.8センチ×3行)	やや難
	問4	記述	内容説明。傍線部の「ステレオタイプ」とそれに抗する「戦略」を「本文全体の論旨を踏まえて」説明する。問3に引き続き、解答範囲が広いことに注意したい。傍線部の指示語「こうした」の指示内容は、問3の傍線部の指示語「こうした」と同内容なので簡潔に述べ、それに抗する「戦略」となる傍線部以降のランシエールの議論の論旨を、その帰結に着目してまとめていく。 (解答枠 16.8センチ×5行)	やや難

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

	問5	記述	内容説明。傍線部を含む一文から、「批判は…不可避である」ことが「そもそも美学が…『不純なもの』である」ことに起因することを踏まえ、傍線部の指示語「こうした」の指示内容となる、美学に対する「批判」の内容を、傍線部の前の段落の具体例に基づいて述べる。ただし、「不純」については、どのような意味で「不純」であるのかを説明するようにしよう。 (解答枠 16.8センチ×4行)	標準
	問6	記述	内容説明。ランシエールの議論のポイントとして、「美学が『不純な』領域であることをいったん引き受け」ることと、「それ（美学）が持つ政治的な批判力を最大限に高く見積もる」ことを二段階で説明していく。「不純」については、問5と同内容である。直後の「つまるところ」から始まる一文を取り込み、「ポテンシャル」の内容として、最終の三段落で述べられている「政治」に関する説明を踏まえたうえで、傍線部の比喩表現「高く見積もる」についても適切に言い換えて解答を作成する。 (解答枠 16.8センチ×4行)	難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学 法・経済(経済・経営)・教育学部 前期日程

科目 国語(古文)

総括	出題数	現代文 2 題, 古文 1 題, 漢文 1 題			
	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	
〈総論〉 字数は 820 字程度で、昨年よりやや増加した。例年、現代語訳・内容説明に加え、文学史が出題されていたが、今年度は文学史は出題されなかった。 〈合格への学習対策〉 共通テストレベルの読解力をつけるとともに、いろいろなジャンルの文章を読み慣れておく必要がある。基本的な文法・敬語の知識は確実にしておくこと。和歌の修辞技法や和歌解釈に関する対策も怠らないようにしよう。					

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	語学書	やくぶんわらべのさとし ばんこうけい 『訳文童謡』(伴蒿蹊)	入試問題には珍しい出典である。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問1	記述	現代語訳。	標準
	問2	記述	文法。	やや易
	問3	記述	内容説明。	標準
	問4	記述	理由説明。次段落に着目。	標準
	問5	記述	内容説明と理由説明。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学 法・経済(経済・経営)・教育学部 前期日程

科目

国語(漢文)

総 括	出題数		現代文 2 題, 古文 1 題, 漢文 1 題		
	難易度(昨年比)		難化	昨年並	易化
	分 量(昨年比)		増加	昨年並	減少
〈総 論〉 昨年度は『三国志』（52 字）とその注（161 字）から出題され、総字数 213 字・設問数 6 問であった。本年度は『蜷洲餘珠』から出題され、総字数 237 字・設問数 6 問であった。本年度は枝問がなくなり、実質設問数は 1 問減少した。 〈特記事項・トピックス〉 昨年度までと異なり、本年度は 1 つの文章で出題された。 本年度も文化史が出題されなかった。また、返り点を付ける設問も本年度は出題されなかった。 〈合格への学習対策〉 ・頻出句形を十分にマスターしておくこと。 ・説明問題に対処するため、読解力・表現力を身につけておくこと。 ・中国思想史・文学史に習熟しておくこと。 ・過去問を通して、様々な設問形式に対応できるようにしておくこと。					

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
四	説 話	『蜷洲餘珠』(寺崎蜷洲)	出題頻度は極めて稀。	やや易

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
四	問 1	記述	理由説明(誰がなぜ、主語を明らかにしてわかりやすく)。	標準
	問 2	記述	理由説明(わかりやすく)。	標準
	問 3	記述	書き下し(漢字仮名交じり、現代仮名づかいでもよい)。返り点付き。	標準
	問 4	記述	書き下し(漢字仮名交じり、現代仮名づかいでもよい)。返り点付き。	標準
	問 5	選択	内容説明。	易
	問 6	記述	語の読み(すべてひらがなで、現代仮名づかいでもよい)。4 問。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。